

令和7年度 第3回岡崎市行財政調査会 会議録	
開催日時	令和8年2月3日（火） 午前10時00分～午前11時00分
開催場所	岡崎市役所東庁舎7階 701号室
委員	出席者：播元公昭、太田健介、中嶋拓、松下康之、宮澤会美香 欠席者：齊藤由里恵、中嶋有美子、寺本意
事務局	財務部長：齊藤哲也、行政経営課長：山内智弘、同課副課長：都築充 同課主任主査：光田和広、同課主査：中野鉄士
会議次第	議題 岡崎市行財政改革推進計画の中間見直しについて
傍聴者	なし
議事要旨	<p style="text-align: center;">－ 開会 －</p> <p>議題 岡崎市行財政改革推進計画の中間見直しについて 資料に基づいて事務局から次のとおり説明。 ・前回の調査会でいただいた委員からの意見について検討した対応結果について報告する。 ・この改訂案の内容について、ご意見をいただきたい。</p> <p>【各委員の主な質疑】</p> <p>○松下委員 項目5「現状」の財政状況に関する部分について、見やすいグラフで示されているのだから、市が許容と考える適正な金額や数値の幅が同じグラフの中に示されているとをもって理解しやすくなると思う。ご検討いただきたい。</p> <p>（事務局：齊藤） いただいた御意見のとおり、財政状況や理想の見える化は非常に重要であると捉えている。民間企業では四半期ごとに経営状況を報告しているが、行政の財政状況は見せ方が難しい。その対応について財政課を中心とした市の経営に関わる部門で協議しているところである。今すぐにはお示しすることができないので、原案のとおりでお願いしたい。</p> <p>○中嶋委員 松下委員の意見に関連して、一般的な会計的数値の把握のしかたとしては、岡崎市での年次比較をする方法と、近隣の他市や、同じ規模の他の市と比較する方法が考えられる。今回示されている数値が、同規模の他市と比べてどの程度乖離しているかという点は、私自身も気になる点であるし、市民の関心もあると思う。目標を示す方法もひとつであるが、他市との比較を示すという方法もある。</p>

(事務局：齊藤)

他市町村の決算状況の把握はしているが、行政は単式簿記であり、資産を反映できていないため、決算の数値だけでは、財政状況を適切に表しているわけではない。複式簿記の総務省モデルというものがあるが、内容として簡略化したものなので、それが財政状況を適切に反映できるのか精度に疑問がある。精度を上げようとした時に、お金や人を使うことになるが、そこまでして行う必要があるかという課題は残る。さきほどの回答のとおり、財政状況は見せ方が難しいので、今後も検討させていただく。

○中嶋委員

市民の方には有用な情報と考えられるので、検討をお願いしたい。

財政調整基金の残高に関しては、金額の単位が大きすぎて、市民がイメージしにくいと思う。例えば、収入がなくても6か月維持できる金額であるといった説明を入れるなど、見せ方の工夫をすると良いと思う。

○(事務局：齊藤)

財政調整基金の残高については、市民一人当たり換算すると県内では低い。全国的に見れば、平均並み。近年は財政調整基金を35億～40億円取り崩して当初予算を編成し、決算剰余金で積み戻すという取扱いをしている。この40億円が2か年分で80億円、これに災害時の備えとして20億円を見込むと合計で100億円となり、目安としている金額になる。

○中嶋委員

市民一人当たり換算の財政調整基金の残高における近隣市町村との比較や全国におけるポディションは、市民にとって有用な情報であると思う。

(事務局：齊藤)

比較を含めた財政状況の情報の見せ方の工夫は、検討を続けていきたい。

○宮澤委員

市民にとっては、行政運営が自分事になったときに不満や怒りにつながってしまう。市の行財政情報の発信は、ホームページや広報誌が中心のようであるが、その他の手法・媒体を活用して幅広く市民に伝わるような情報発信を検討していただきたい。

○中嶋委員

計画の戦略2「先進技術の駆使」の取組内容2-1のAI活用について、この1年でとても使いやすくなったと感じる。特に画像認識が優秀になっている。自分の仕事関連では、レシートの画像から読み取ったデータを入力し、仕分けしてくれる。しかも精度が高い。アナログ情報をデジタルに変換するツールが使いやすくなっている。一般社会でも広く使われるようになってきているので、行政でも活用を勧めたい。

(事務局：齊藤)

市役所だと市民からの問合せが多い。近々、ホームページのリニューアルを行うが、その中でAIが質問に対し24時間対応できるようにする。さらに問合せを蓄積し、回答内容についてブラッシュアップしていくこともできる。

○中嶋委員

国税局の担当の方の話では、デジタルインボイスの話題があがる。岡崎市としてはその流れは進んでいるのか。

(事務局：齊藤)

デジタルインボイスについては進んではいない。納税通知書などの納付書を紙でなくデジタルで送付する動きはある。

○播元会長

それでは質疑応答も終わったので、お諮りする。今回、事務局から提出された行財政改革推進計画の見直し案について、この内容で執り進めることについて、ご異議ございませんか。

○各委員

意義なし

○播元会長

ご異議なしと認める。それでは、本行財政調査会は事務局の案を妥当であると決定する。

これで議題に対する審議は終了する。

本会の活動は、本日が現任期での最後の会議となった。委員から、岡崎市における行財政改革の取組や本会での活動、または市政全般に関するご意見があればお願いしたい。

○松下委員

今年度は、行財政改革推進計画の見直しについて関わらせていただいた。行財政改革に関する様々な取組が行われていることがわかった。今後ますます岡崎市が住みやすくなり、財政状況としても安心して暮らせるような市政を推進してほしい。世界はどんどん変わっていくので、現状に満足せず、未来を見据えた取組をお願いしたい。

○宮澤委員

3期6年間に渡り委員を務めさせていただいた。この間、市職員は人事異動で代わっていったが、どの職員も私たち委員の意見や質問に対し、真摯に対応してくれた。その姿勢を見て、今後も誰一人取り残さない社会のため、市民一人一人のために尽力してくれることだろうと期待する。

今後生産年齢人口の減少等財政状況は厳しくなると思うが、現状まで持ちこたえてこられたのも、早い段階からスリム化に着手し、取組んできた努力だと思う。今後もより一層スリム化、電子化が進んでいくと思うが、その過程においては、誰一人取り残さないという努力と市民一人一人に寄添う気持ちを忘れずに改革を進めていっていただきたい。

○中嶋委員

毎年公表している行財政改革推進計画の実績報告については、市民にとって見て分かりやすいようにしていただきたい。今の資料は網羅的過ぎて読む気がなくなってしまう。理想をいうと、1枚で「今年はどうでした」というサマリー資料のような、ぱっとみてすぐわかるような形で発信していただき

たい。ホームページで公開するにしても、PDFのリンクをクリックさせるのではなく、そのページ内に示すくらいのわかりやすさが必要である。そうすることによって市役所と市民との距離も近くなると思う。

○太田委員

スマートでスリムな行政運営を目指す中で、デジタル化は欠かせない分野として推進されている。一方で、水害や地震などの自然災害よりも頻度が高まっているサイバー攻撃については、リスクが非常に高い。総合病院が攻撃を受け、機能停止に陥る被害も出ている。これに対してもテーマとして可視化していただき、デジタル化という攻めと、サイバー攻撃対策という守りの両面を合わせて推進することが市民への安心感につながると思う。

○播元会長

3期6年に渡り委員を務め、途中からは会長を拝命した。委員の方々におかれてはそれぞれ市民目線、労働者目線などあらゆる観点から積極的に発言をしていただいた。事務局におかれては、資料などの会議の準備を務めていただいた。みなさんの協力のおかげで円滑な議事進行ができたことを改めて感謝申し上げる。

この数年だけを見ても、岡崎市を取巻く環境や状況について世界的にも様変わりが激しく思う。市としてのあるべき姿、求められる役割も変わってきており、難しい局面が多いと感じる。今年度の行財政改革推進計画見直しの議題を経て認識したこととして、行政においても、生産年齢人口の減少、税収減少のリスク、市職員のリソースの減少など、対応しなければならない課題は多いように感じられる。

自分自身も自動車産業に携わっているが、自動車業界も大きな転換期を迎えており、難しいかじ取りを迫られている。民間企業も行政も、経営資源が限られる中にありながら、社会に果たす役割はますます重くなっている。

その一方で、本調査会の委員として行政に関わる中で感じたことは、行政の職員だけにすべてを任せることがあるべき姿ではないのだろうなということである。私たち市民、生活者として、自分事として捉えて、岡崎市の行政に少しでも関わっていくことが大事であると感じた。せつかくここで行政に関わらせていただいた経験を今後の社会生活に活かしていきたいと思う。

他の委員の意見にもあったように、市の取組が市民に見えることが大切であり、市民に自分事と捉えてもらえるような情報を発信していただき、市民と市役所が共に進めていくような体制が構築できるとよいと思う。

○播元会長

これもちまして、令和7年度第3回行財政調査会を閉会する。

— 閉会 —